ミドルクラス人口増が食料需給に与える影響予測

※ミドルクラスとは購買力平価換算一人当たりGDPが10,000ドル以上の新興国の人口のこと

新興国の所得増加でミドルクラス人口が増えることにより、今まで肉類を食べていなかった層が肉類を食べるようになる。

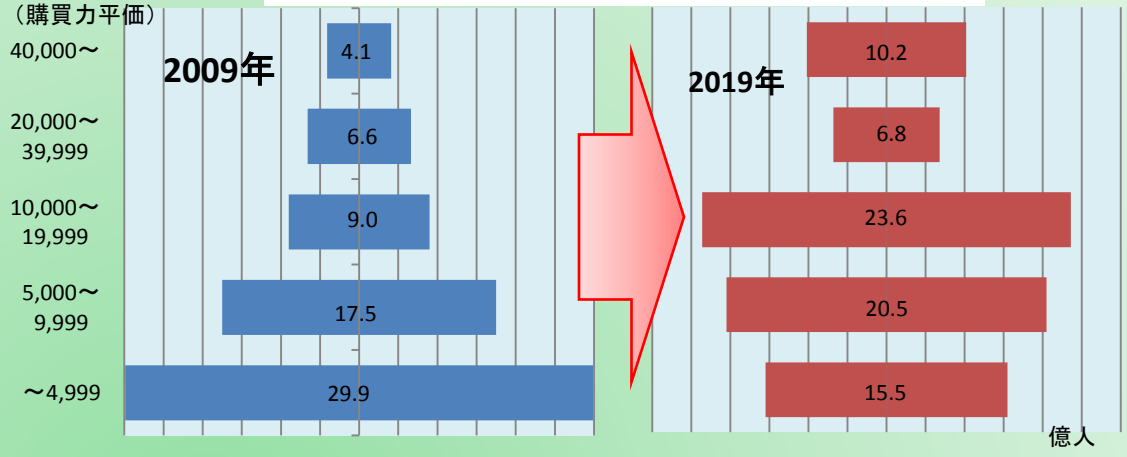
肉類は、牛肉1kg作るために穀物7kg、豚肉1kg作るために穀物6.5kg、鶏肉1kg作るために穀物2.6kgを消費すると言われているので、肉類の需要が増えるとその数倍の飼料用穀物生産が必要になる。

一人当たり年間に必要な穀物量は167kgとされ、今後10年で人口が約10億人増えると、新たに必要な穀物量は1億6,700万トンとなる。

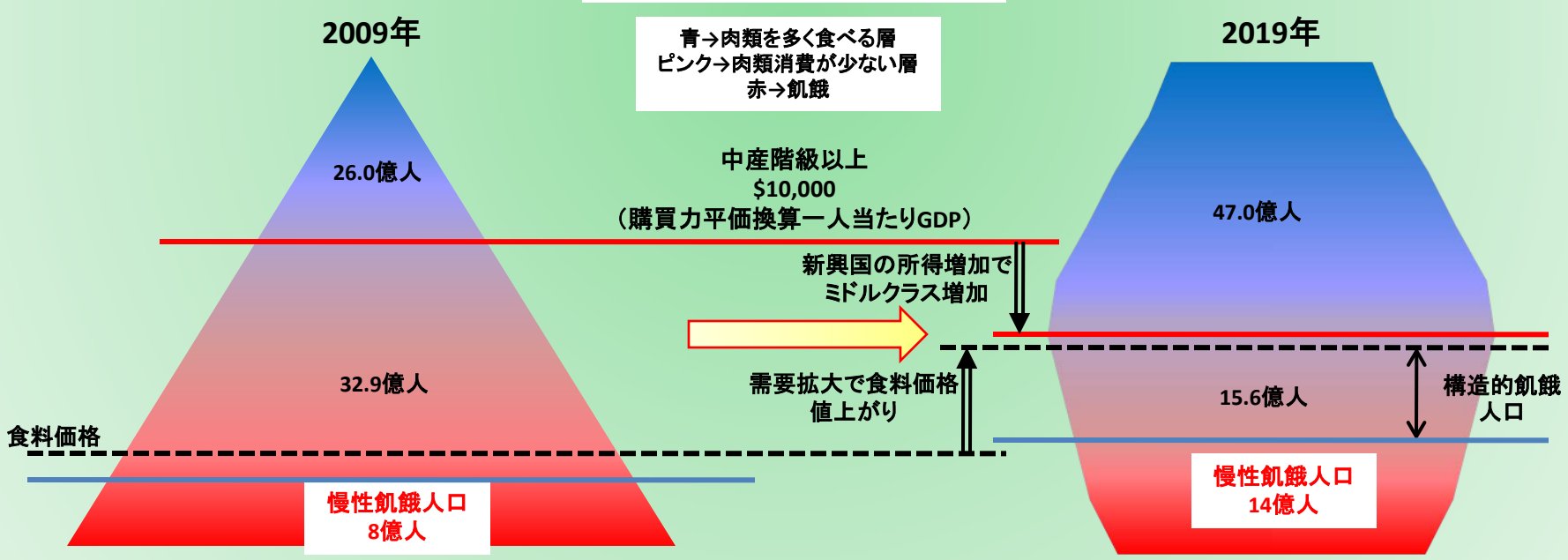
例えば新たにアメリカ人並に牛肉を食べる（年間約45kg）ようになるミドルクラス以上の人口が今より5億人増えると、牛の飼料用に1億5,750万トンの飼料用穀物が追加で必要となる。

このように、将来の食料需給を鑑みると、人口の増加よりも、新興国の先進国化によって肉類を食べるようになるミドルクラスの増加のほうが、より需給を圧迫し、価格高騰の大きな要因となる可能性がある。

世界の一人当たりGDP国別ウェイト全人口加算



世界の所得階層別人口推計



階層別人口：購買力換算一人当たりGDPの国別所得階層分布を東京創研が独自に集計したもの